

令和2年度 第1回河北町総合教育会議会議録

1 出欠席者氏名

河北町長 森谷 俊雄、河北町教育長 板坂 憲助

河北町教育委員 児玉 康子、木嶋 真一、丹野 正英、和田 茂樹

欠席者（0名）

2 事務局職員の職氏名

学校教育課長 岸 康彦、生涯学習課長 牧野 隆博

教育主幹(兼)指導主事 石山 勝巳、指導主事 秋葉 千絵

課長補佐(兼)管理係長 大泉 雅志

3 日 程

令和2年12月17日（木）午後3時28分 開会 河北町役場3階・委員会室

1 開会

2 町長あいさつ

3 協議

(1) 第8次河北町総合計画について

4 その他

5 閉会

1 開会

大泉課長補佐

定刻前ではありますが、皆さんお揃いですので、只今より、令和2年度 第1回河北町総合教育会議を開催いたしたいと思います。はじめに町長のほうから挨拶をお願いしたいと思います。

2 町長あいさつ

森谷町長

お忙しい中、お集まり頂きまして、ありがとうございます。

今年につきましては、災害やコロナに明け暮れた一年でしたが、学校でも経験したことのない学校運営だったかと思います。コロナにつきましては、県内でも拡大しておりまして、町としましても県と情報共有しながら対応していきたいと思います。

また、併せて、7月豪雨で、押切地区・改目・北口・田井地区・溝延など被災された住宅がありました。規模的に言いますと、農業なども含めて、県内では河北町の被害が一番大きかったと思います。子供さんも被害を受けていますし、大変な一年で終わりそうだなと感じています。いずれにしても、感染防止に注意していただいて、いい新年・新学期に繋がるように取り組んでいきたいと思います。

また、第8次総合計画ですが、9月に基本構想を作成いたしまして、議会の承認を得たところでございます。児玉委員からは、振興審議会の委員としても、ご協力をいただいておりますけれども、11月に基本計画の答申をいただいて、12月議会で議決していただきました。来年からの10カ年の計画となります。「輝く人・町 夢と未来へ挑戦するまち」となります。人口減少の加速、少子化、超高齢化、そして、災害の多発化につきまして、いかに将来を見据えた計画。学校教育におきましても、デジタル化の進展、それから今日の新聞にも出ておりますけど、一挙に30人学級ということではないようですけど、まずは35人学級に段階的に少人数学級に動いていくようです。いずれにしても学校教育をめぐる様々な環境変化が進んでいくと思います。人口減少の加速以上に時代の要請が加速的に変化してくると思います。そういった中で、河北町で生まれ育ち、自信をもって羽ばたける教育の振興を本町で実践することが、輝く人・町 夢と未来へ挑戦するまちづくりになっていくと思います。今後、基本計画の下で教育分野について様々な課題がありますけれども、教育委員の皆様方のご協力をいただきまして、本町における教育振興の発展に努めていきたいと思っています。

岸課長

協議に入る前に、私の方から経過を説明させていただきます。総合計画を策定するにあたりまして、各課の係から1名ずつが選出された主任者会の協議を受けまして、副町長が会長となり、各課長で構成する幹事会で協議してきたところです。併せて、まちづくり町民会議の方々からも協議していただいたところです。また、先ほど町長からありました、児玉職務代理が参加されています河北町振興審議会で審議され、9月定例議会で基本構想、12月定例議会で基本計画が議決なつたところでございます。委員の皆様方には基本計画の第5章を抜粋したものを事前配布させていただいたところです。第5章の「ふるさとに学び次代につなぐ町」について、ご議論していただければと思います。よろしくお願ひいたします。

大泉課長補佐

それでは、協議に入らせていただきたいと思います。座長につきましては、町長からお願ひしたいと思ひます。

3 協議

森谷町長

はじめに、教育長からポイント等を説明していただきたいと思います。

板坂教育長

皆さんのお手元にあります資料の1ページ「第5章 ふるさとに学び次代につなぐ町」の中に、第1節から第3節まであります。第1節が「家庭・地域と連携した学校教育」、学校教育課関係をすべて網羅しております。今年度から新しく加わつたものとして、数値目標を設定しております。38ページにありますように、数値目標として「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」小6・中3とあります。これは、毎年4月に全国学力調査・学習状況等調査が行われます。その中の一つの項目になっています。なぜこの項目を取り上げたかということ、現在、学校が7校あるわけですが、7校のうち5校で、自尊感情・自己肯定感・自己有用感を重点として、教育に取り上げております。それから、

いじめ・不登校が増えるということで、自尊感情・自己肯定感・自己有用感が育てば、いじめ・不登校が減るのではないかということが、全国的に言われていますので、そういった数値目標を設けました。あと、学校教育関係で、地産地消の使用率ということで、数値目標を設けております。

それから、第2節につきましては、「地域に根ざした生涯学習」ということで、主に生涯学習課の内容になります。文化の薫り高い街ということで、様々な文化活動、或いは、スポーツ活動に取り組んでいるわけですが、数値目標については、41ページにありまして、「地区公民館利用者数」、「人口一人あたりの図書貸出冊数」、「体育施設利用者数」ということで、数値目標をこのように掲げています。

それから、第3節につきましては、「歴史と文化の継承」ということで、サハトベに花を核とした文化活動、或いは、多様な伝統文化の継承ということで、文化・歴史についての施策が盛り込まれています。数値目標については、42ページをご覧ください。ご覧のように「全天周劇場入場者数」、「史跡説明板設置数」ということで、目標を設定しております。

これから町長より進めてもらいますが、事前に配布しておりますので、質問等、或いは、もう少し詳しく説明をお聞きしたいというところがあればお願いしたいと思います。

森谷町長

それでは、皆さんから内容について見ていただいた中での確認したいこと、或いは、感想、或いは、今後進めていく上でのアドバイスなどがあれば、お願いしたいと思います。

これまでの総合教育会議の中で、議論なった点で、一点だけ申し上げますと、小中学校のあり方なんです、前回の7次総合計画中でもそうなんです、これから小学校・中学校、とりわけ小学校のあり方について、8次総合計画の中にどう取り込んでいくかというのが大きなポイントとなったところです。35ページのところにある現状と課題ですが、最後のところに「併せて、本町の将来を見据えた小・中学校のあり方や教育環境の整備のあり方について、これま

で、小学校の将来を考える会などで議論を重ねてきたところですが、今後も教育関係者、町民各層の議論を重ねていく必要があります。」ということで、課題としての表現にとどまっています。方向性としては、ニュートラルな記載となっております。町民会議でも、最初は子育て支援の議論だったんですが、途中から小学校のあり方の議論に入りまして、そちらのほうが熱を帯びた議論になりました。それだけ関心は非常に高いなと感じました。それを踏まえて、基本的施策については、36ページの上にあります、「小学校のあり方については、就学年齢人口の動向を踏まえながら、教育関係者や保護者、地域住民など町民各層の議論を重ね、子供たちにとってよりよい教育環境の構築を目指して検討します。」ということで、学校のあり方を考える上では、いろんな切り口があると思います。学校運営的な視点からの議論もあるでしょうし、地域のかかわり方での議論もあるでしょうし、また、いかに教育にお金を投資していくかという意味で、子どもたちに学んでもらうために、どういった形で環境整備をして、どういった環境の下で、どういったところに力を入れて、教育環境を提供していくのだろうか、いろんな視点があるかと思います。授業の質を高める、或いは、いろんな部活なり、或いは、生活指導、いろんな学校運営でのよりよい教育環境など、視点はたくさんありますが、私の理解としては、子供たちにとってよりよい教育環境を目指していくというように考えております。

児玉委員からコメントいただければと思います。

児玉委員

3ページの(3)の「キ」になりますが、その中の「指導者の資質の向上」がなければ、どうしても使いこなせないだろうなと感じますので、そのあたりに力を入れていただきたいと思います。それから、学校だけではなく、町全体のICT環境整備も進めてもらいたいと思いました。

あと、もう一点が「サ」のコミュニティ・スクールの導入については、町民全体、保護者も含めて教育に参加していくという中身を確認したいと思いました。

それから、4ページの(5)の「エ」のところですが、コロナの状況の中で、新しい生活様式になっていくんだと思います。他者を思いやる心を大切にする感染

症予防の教育ですが、今後どうされていくか、お話を聞ければと思います。

それから、6 ページをお願いしたいと思います。基本的施策の(6)ですが、このなかの「幼少期から」というところの町長さんの思いを聞かせてもらえればと思います。

木嶋委員

小学校のあり方で、土地柄・住民の方の感情もあって、難しい問題だとは思いますが、町長さんが言われたように人口が減少するとか、いろいろな時代の流れで、どうしても直視していかななくてはいけないですし、そういうのが近くなっていると思います。先ほど、学校の長寿命化の中でも、現行の7校を維持していく考えとあるんですが、今後10年間は7校を維持するという考えなんですか。

丹野委員

私も同じなんですが、小学校と中学校が7つあって、先ほどの会議でも、修繕で残していくという話なんですが、残すのであれば活用方法を考えていただいて、例えば私の考えとしては、小学校6つで交流するとかがあればいいと思います。

もう一点なんですが、学校給食のことなんですけど、町産食材の使用率25%以上とあるんですが、給食費の問題もありますし、予算の考えもありますし、特に河北町の農産物については、値段的に高級なものが結構ありますので、その辺も考えたうえでの数字なのかどうかというところが気になりました。先日中学校の給食をいただいたのですが、美味しいかといわれると、なかなか……。食材の調達に関しても、どういった調達をしているのか、入札でやっているのか、その辺のところを教えていただければと思います。

和田委員

小中学校のICT環境ということで、タブレットの使用なんですが、正しい教育技術を取り入れていただいて、有効に利用できる教育に力を入れていただき

たいと思いました。

それから、安全安心な学校ということで、新しい生活様式なんですが、コロナが収まっても、元の生活には戻らないと思いますので、常に安全な学校を教職員の皆さんとともに我々も作っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

森谷町長

各委員会から確認のことも含めてありましたが、岸課長、秋葉先生、主幹、教育長の順番で、説明をお願いします。

岸課長

3 ページの小中学校の I C T 教育関連ですが、定例会の中でも、現在の進捗状況をお示ししているところですが、本町におきましては、他の市町村と比べて遅れておりました。文科省の通知がありまして、G I G A スクール構想が前倒しとなり、今年度、ネットワークの環境整備から一人一台端末整備というのが G I G A スクール構想の柱であります。さらに、電子黒板の導入、デジタル教科書を取り入れまして、頑張っているところでございます。そういった中で、指導者に対する研修といいますか、先生方が操作を分からないと話にならないので、2 名の I C T 支援員を導入し、タブレット端末における授業時において、操作の説明から応用編等を進めていく予定ですので、大いに活用していただけることを期待しているところでございます。

それから、5 ページの町産食材の使用率が現状で 1 8 . 5 %、目標が 2 5 % 以上とありますが、確かに町産食材については、県外産の比率が高いわけですが、この基になるのは、食育推進計画、農林振興課で策定している計画になります。その目標数値に合わせたかたちとなっております。特に野菜に関しては、町の野菜組合がございまして、そちらのほうから納入したり、J A がえ西村山を通して、河北町産米を独自に導入しておりますけれども、米については食材に入りませんので、あくまでおかずだけということになりますと、2 5 % をクリアするのは大変かと思います。玉ねぎ・ジャガイモ等を河北町で

賄えるかどうかという点、難しいと思います。なので、できるものはなるべく、給食費には影響してくるかと思いますが、河北町産を増やすということで、目標を掲げたところです。

森谷町長

購入は、指名競争入札なのか。

岸課長

委託先で、調達しています。

森谷町長

委託契約の中で、地元食材としているのか。

岸課長

栄養士がこういったものをお願いしますということで、実施しています。

森谷町長

米は、100%町内産だと思うんですけど、野菜なんかは、町産とか指定しないで、ジャガイモとかは指定しているの。

岸課長

指定できないんです。大量に必要なので。小松菜とかであれば。

森谷町長

だとすれば、18.5%を米以外で25%以上にするには、なにをすればいいのか。業者に対して、努力規定の結果として達成するかしないかという話と値段との関係になるのか。

岸課長

背景としましては、農林振興課で進めているんですが、周年野菜、ハウスで冬場でも採れるようなことを補助金を導入して、なるべく農家の方に作っていただく施策をしているところですけど、ハードルが高い状況にあります。

秋葉指導主事

英会話の推進なんですけれども、今年度はコロナ過というところで、実際の計画からは変更しているところがあります。幼少期からとありますけれども、幼稚園・こども園等での活動も取り組んでいたんですが、前半のほうでは、新しく来たALTの学校以外で教えるためのビザが必要になるんですけど、そちらが夏場まで下りないというところがあって、そこで計画していたものについては、後にずれ込んだんですが、先月、かほくあいこども園で、年長児を対象に49名で、ALTを派遣して実施してきました。色の学習だったんですけども、非常に質の高く楽しい学習ができて、最終的には、I like ○○というふうに、みんなが言えるというか、言ってゲームできるところまで楽しんで進めることができたところです。学校のほうでは、実際に学んだフレーズですとか、そういう場を実際の場に活かすということで、表現まで活かせるというところで、スキルを上げるようにということで実施しているところですし、KGKの授業は、時期をずらしていますけれども、年間6回ということで、今週末に4回目も計画をしています。今年度は、全体6回分のテーマを交流ということにおいておりまして、河北町の案内や紹介ですとか、オリンピックも見越していましたので、訪日外国人のサポートなども中心にしていたんですが、一部外国人が入ってこない状況になっていますけれども、そういう場面を想定して、これまで3回計画して、町民の方20人弱くらいの方が活動していて、今週、4回目を迎えるところであります。ほかにも、ござ一れ広場さんにALTを派遣しまして、子供たちの英会話をしたりですとか、放課後子供教室、放課後の子供たちの遊び場というところでも、英会話を組んで、そこに子供たちが行って学ぶということで、生の英語というか、ALTの先生に触れて、言いたいことが伝わったとか、楽しかったというところを増やすというところで、慣れ親しんで、子供たちも慣れ親しんで、大人の人も勉強熱心な方ばかりいら

っしゃるので、そういうところで、両面から外国語に親しむというところをコロナ過の中で制限されているところではありますけれども推進しているところ
です。

石山主幹

I C Tのタブレットですが、町に整備なるのが3月20日完了で計画している
ところではあります。運用については、新年度から使い始めるイメージになります。2
月に入るのは電子黒板になりまして、町独自で用意しているものになります。
現在、G I G Aスクールサポーターの協力を得て、教員が使っていけるように
計画しているところであります。

また、教育研究所の機能を活かすと職員の研修にも使えると考えております。

それから令和4年度に北谷地小学校の公開研があります。その公開研のメイン
にI C T活用にしていければと思います、北谷地小学校の校長先生と詰めている段
階です。

コミュニティ・スクールについてですが、現在各学校で委員の人選をしている
ところではあります。併せて、コーディネーターも探しているところではあります。

アフターコロナについてですが、「他者を思いやる心を大切にする感染症予防
の教育」が喫緊の課題になります。学級では、道徳の時間がメインになると思
いますが、学校全体での講話とか生徒会などの子供たちからの動きを大事にし
ていきたいと考えています。

児玉委員

「他者を思いやる心を大切にする感染症予防の教育」とありますが、学校にだ
け求めるのはどうなのかなと思います。町として決めているところもあります
よね。

森谷町長

是非そうしたいと思います。

板坂教育長

I C T教育を推進するのは課題だと思っています。進めるための条件として、環境を整える、コンテンツを整える、人材を整える。この三つを柱にしていきたいと思います。一つ目の環境を整えるというのは、ルーターを貸し出すとか、デジタル教科書・電子黒板を購入するなどがあります。二つ目のコンテンツを整えるというのは、環境を活かすための教材・教具のデジタルコンテンツを作成するまではいかなくても、あるものを紹介したい。今年度については、eライブラリを活用しています。三つ目の人材を整えるというのは、10月からGIGAスクールサポーターを一人委託して、GIGAスクール構想を進めるために支援をしてもらっています。来年度については、ICT支援員を二人配置する予定になっています。そして環境を活かすには、教員の質の向上が求められると思います。

それから小学校の在り方についてですが、基本は情報を細かに提供しながら論点を整理して町民各層或いは、先進地の方々からも広く意見を聞きながら、議論を深めて方向性を定めていきたいと思っています。

森谷町長

中学校と高校の連携を強化していきたいと、河北中学校及び谷地高校の校長先生と話す機会を設けました。時間がかかるかもしれませんが、例えば、ICT教育とか英語教育などで連携できればと考えているところです。

それから、小学校の在り方についてですが、少子化が加速していますし、ここ10年間、六つの小学校でやっていくのかという話ですけど、基本計画策定の時点では、統合・学区再編は視野に入れておりません。今後、学校間で連携していく中で、課題等が出てきた時に議論になり進んでいければと思っています。

木嶋委員

学校給食における町産食材の使用率ですが、目標達成の手立てもしていないし、目標を掲げているだけでいいのかと思います。例えば、業者との契約の中に来年度は20%と達成してくださいとか入れないと努力目標にしかないのでは

と思います。

岸課長

業者ではなくて、農家の育成が重要になってきます。ハウス栽培で冬でも収穫できる周年作物を安定的に栽培することによって、それを学校給食に取り入れれば目標を達成できるようになると思います。

4 その他

5 閉会

大泉課長補佐

これをもちまして、令和２年度 第１回河北町総合教育会議を閉会いたします。

～午後４時５０分